

○ 日本橋三越でユビキタス ID 導入開始、来月から本格実施へ—TOKYO X

ブランド豚肉「TOKYO X」を取扱う流通、販売業者らで組織する「TOKYO X-Association(アソシエーション)」(植村光一郎会長)は29日から、東京・中央区の日本橋三越本店の精肉売場(二幸ミート)でユビキタスシステムを導入した豚肉の販売を開始した=写真。商品に貼付されるTOKYO Xのラベルに2次元バーコード(QRコード)や識別コード番号を記載、携帯電話やパソコンを用いて、生産者名、営農地域、経営規模、生產品目、販売方法、経営特徴など一連の肥育情報が分かる仕組みで、安心・安全を求める消費者志向に応えるだけでなく、生産者の誠意やこだわりも伝える。1カ月ほど同店で先行販売し、来月には他の取り扱い店舗へ拡大していく予定だ。

ユビキタスシステムを用いた豚肉の個体識別管理は日本で初めての取り組み。生後3カ月以内の全ての子豚に耳標を取り付けることで1頭ごと個体管理し、出生から出荷、と畜処理、枝肉処理といった各段階の情報をユビキタス情報処理センターに入力する。卸・小売などへの出荷段階では半丸1頭分当たり150枚のラベルが配布され、各商品に貼付される。同組合では、今回の先行販売と合わせて、生産段階と流通段階での一致を確認するためDNA検査のためのサンプリングを実施する。

生産農家の一人、澤井農場(八王子市)の澤井保人さんは「TOKYO Xの販売開始から10年になり、この間様々な障害があったが、ようやくここまでたどり着いた。このユビキタスシステムは、消費者の方々にコンセプトやこだわり、生産者の顔、どんな場所で生産しているかが確認できるという“安心感”を提供する取り組みだ」と強調。二幸ミートの篠田宣昭店長も「1週間に2回、合計で2頭半ほどTOKYO Xを入荷しており、客の中には入荷日を待って来店される人もいる。今回のユビキタスも、これを機に対面販売を通じて広くお客に紹介していきたい」と話していた。



○ 全国5カ所で食品流通業者を対象に品質表示セミナー開催—食流機構

(財)食品流通構造改善促進機構は11月から来年2月にかけて、全国5カ所で畜産物や水産物、農産物の卸・仲卸・小売業者を対象にした食品品質表示セミナーを開催する。不正表示をなくし、正しい表示で消費者に安心・安全を提供することを目的にしており、当日は農林水産消費安全技術センターの担当者を講師に「品質表示制度の概要」「表示の作成方法の手順」などを解説する。参加費は無料。開催場所は次の通り(ともに午後1時30分から4時まで)。

▽仙台会場=12月4日・2月13日(エスポールみやぎ)、▽北海道会場=11月22日(札幌市中央卸売市場)、▽岐阜会場=1月31日(岐阜市中央卸売市場)、▽香川会場=11月12日(サンポートホール高松)、▽佐賀会場=2月5日(佐賀市文化会館)。詳しくは、食流機構(Tel.03-5543-8023)まで。